

## ディープなアジア映画鑑賞 ②

### 「道 - 白磁の人」

為我井 輝忠

久しぶりに感動的な映画を見ました。この映画はアジアの映画と言うよりは日本映画の範疇に入りますが、そのテーマと主人公に関心があり、取り上げてみました。実は、私は2回も(試写会と一般上映)見てしまいました。しかし、すでに各地で上映されて1カ月ほどもたっていないながら、あまり関心を呼ばず、ほとんどマスコミで取り上げられていないようで、少々残念です。そこで本欄で紹介出来ればと考えました。

戦前の朝鮮で林業開発に生涯をかけ、その傍ら朝鮮白磁の美しさに目覚め、その美を日本の人々に伝えながら、道半ばでかの地で亡くなった浅川巧(1891～1931)の生涯を描いた映画です。彼のことは7、8年前に偶然ある本で知り、さらに今年の3月「浅川巧生誕120年記念浅川伯教・巧兄弟の心と目一朝鮮時代の美」という展覧会を見て、一層興味を覚えた次第です。

ところで、「浅川巧」をご存知でしょうか。彼は山梨県北杜市の出身で、林業技師として朝鮮に渡り、荒廃した朝鮮の山々を緑に戻す使命を抱いた人でした。日韓両国の教科書に載り、民芸運動の柳宗悦に大きな影響を与え、哲学者の安部能成は彼の死を「人類の損失」と記しています。偏見や驕りにとらわれずに朝鮮人と親交を結んだ稀有の人物であり、その墓は現在ソウル郊外の独立運動に携わった人々が眠る忘憂里公園墓地で共にこの国の人々の手で守られています。

監督は高橋伴明(『火火』や『禅ZEN』を制作)、浅川巧を演じたのは吉沢悠で、彼は「JIN - 仁 -」、「南極大陸」等のテレビドラマや『夕凧の街 桜の国』、『孤高のメス』等の映画に主演した実力派です。もう一人忘れてならないのは韓国側の主演として出ていたペ・スビンです。彼はNHKが放映の韓国ドラマ「トンイ」に出ていたので、ご存知の方もいるでしょう。映画の中で、ペ・スビン(イ・チョンリム役)は職場の同僚として、浅川に朝鮮語を教え、白磁に代表される朝鮮の文化や工芸品の素

晴らしさを手ほどきし、共に山々を緑に戻し、民族の壁を越えた友情を築いていきました。しかし、ある事件をきっかけとして、チョンリムは抗日運動の罪で投獄されてしまい、2人の美しい友情は引き裂かれようとしていた……

2人の友情をはぐくんだ朝鮮の自然や芸術の素晴らしさをこの映画から見る事が出来ます。さらに戦前の朝鮮の人々とその生活振りに共感を覚えたり、同時に当時の日本人の傍若無人な振る舞いに怒りを感じるなど、普通のありきたりの映画を見た時に感じたことのない高揚感を覚えました。これはこの映画の素晴らしさから来るものでしょうか。内容としてはかなり重いテーマの映画ですが、今でもその時の感動が何度も蘇ってきます。

この映画の制作が企画されてから10年ほど経つそうです。日韓混成スタッフのため日本と韓国の考えの違いとそこから来る対立等両者を隔てる高い壁があり、徐々に理解しながら、完成にこぎつけました。KOFIC(韓国映画振興委員会)の支援を受ける初めての外国映画にも選定されました。この映画のホームページ(<http://hakujiinohito.com>)もありますので、さらに興味のある方はご覧になってみてください。



①映画の一場面 ②浅川巧生前の写真 ③ソウルにある浅川巧の墓